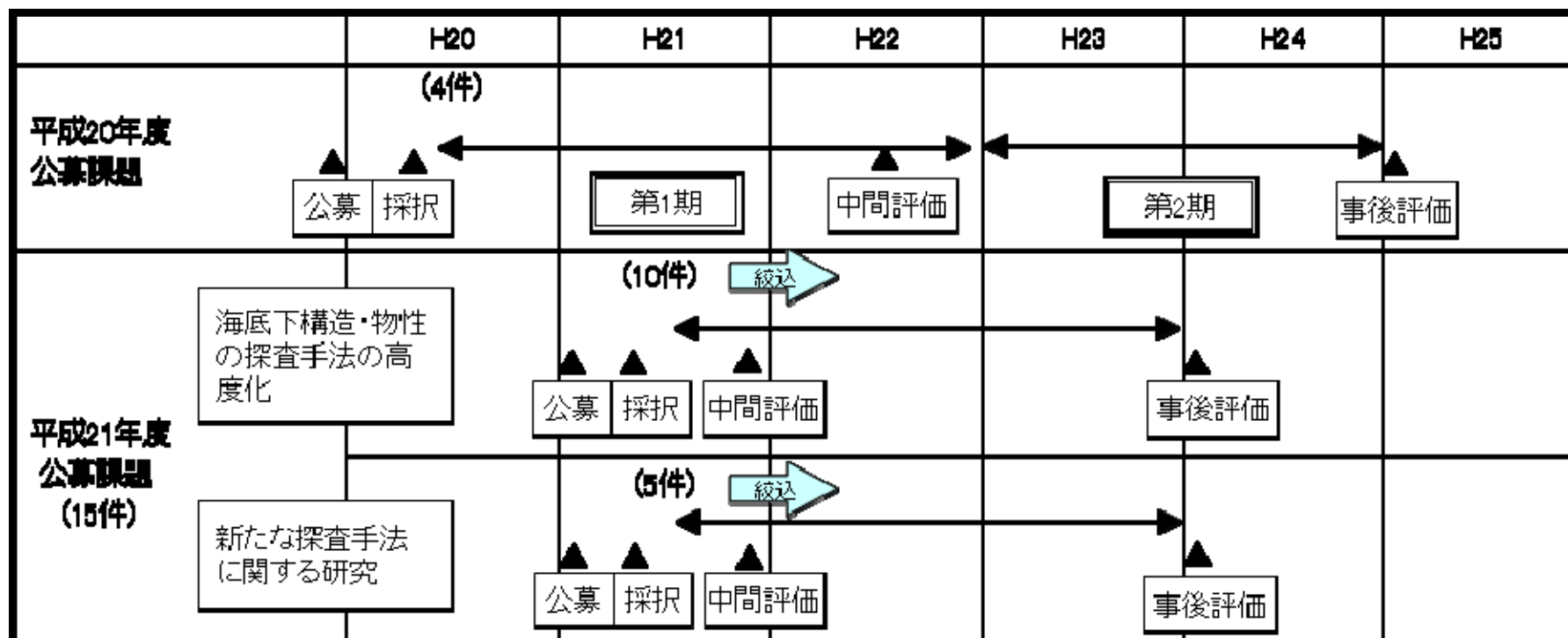


## 海洋資源の利用促進に向けた基盤ツール開発プログラム平成 21 年度公募要領と平成 20 年度公募要領との対比

	平成 20 年度	平成 21 年度
公募課題	(1)海底位置・地形の高精度計測技術の開発 (2)海水の化学成分の高精度計測技術の開発 (3)海底下の構造の高精度計測技術の開発 ① 海底熱水鉱床域等における海底下の構造の高精度計測技術の開発 ② コバルトリッチクラストの厚さの高精度計測技術の開発 (1課題あたり1億円程度)	(1)海底下構造・物性の探査手法の高度化 (3000万円×10課題程度) (2)海底熱水鉱床の成因論等を考慮した新たな探査手法に関する研究 (1000万円×5課題程度)
対象	(1)単一の研究機関に所属する研究者又は研究者のグループ (2)複数の研究機関に所属する研究者のグループ	(1)国公立大学、国公立試験研究機関、独立行政法人、民間企業に所属する研究者、技術者 (2)国公立大学、国公立試験研究機関、独立行政法人に所属する研究者等
実施期間	(1)第1期(平成20年度から22年度まで) 資源の賦存量に関する詳細な情報を取得するに当たっての共通の、基盤的な技術開発を実施。第1期終了時点で外部評価委員会による中間評価を実施。 (2)第2期(平成23年度から24年度まで) 第1期で開発したセンサー等のツールの実利用化のための実海域におけるパイロット調査等を実施。終了後に外部評価委員会による事後評価を実施。	(1)平成21年度に高度化の実現可能性に関する研究(フィージビリティスタディ)を実施。平成22年1～2月にフィージビリティスタディの結果を踏まえて外部評価委員会において評価を実施し、今後の開発が有望であると評価された課題については、平成22年度、23年度において、開発に必要な経費を充当し、探査技術の開発を実施。 (2)平成21年度には、海底熱水鉱床の成因論を踏まえた探査の概念検討を実施。平成22年1～2月に概念検討の結果を踏まえて外部評価委員会において評価を実施し、今後の研究開発が有望であると評価された課題については、平成22年度、23年度において、探査技術に関する研究開発を実施。
プログラムディレクター(PD)	<b>電気通信大学 竹内 俱佳 名誉教授</b> ○ プログラムの方針の決定 ○ 資金の配分額や配分方式の決定 ○ 採択課題の決定 ○ プログラム全体の運営状況の管理	<b>電気通信大学 竹内 俱佳 名誉教授</b> ○ プログラム全体の研究開発の進捗状況の管理 ○ 資金の配分額に関する検討 ○ 課題の選定に関する検討への参加
外部評価委員会	<b>「海洋資源の有効活用に向けた検討委員会」とする。</b> ○ (プログラムディレクターとともに)課題の選定にも参画 ○ 中間評価、事後評価の実施	委員は、「海洋資源の有効活用に向けた検討委員会」委員とする。 ○ (プログラムディレクターとともに)課題の審査を実施 ○ 評価の実施
研究調整委員会	PDが主催 PD、研究代表者、JAMSTEC、JOGMEC、文部科学省で構成 ○課題間及び関係機関との連携、目的の達成の促進 (年3回程度)	PDが主催 PD、研究代表者、JAMSTEC、JOGMEC、文部科学省で構成 ○課題間及び関係機関との連携、目的の達成の促進
研究運営委員会	主管研究実施機関が主催 各共同研究参画機関から選任される責任者、外部の有識者等で構成。文部科学省担当官が必要に応じて参画。 ○当該課題の円滑な推進、運営管理に必要な連絡調整 (年3回程度)	主管研究実施機関が主催 各共同研究参画機関から選任される責任者、外部の有識者等で構成。PD、文部科学省担当官が必要に応じて参画。 ○当該課題の円滑な推進、運営管理に必要な連絡調整

## 海洋資源の利用促進に向けた基盤ツール開発プログラム 年次計画



※継続して研究開発を実施しない課題については、中間評価を以って事後評価と代えることとする。